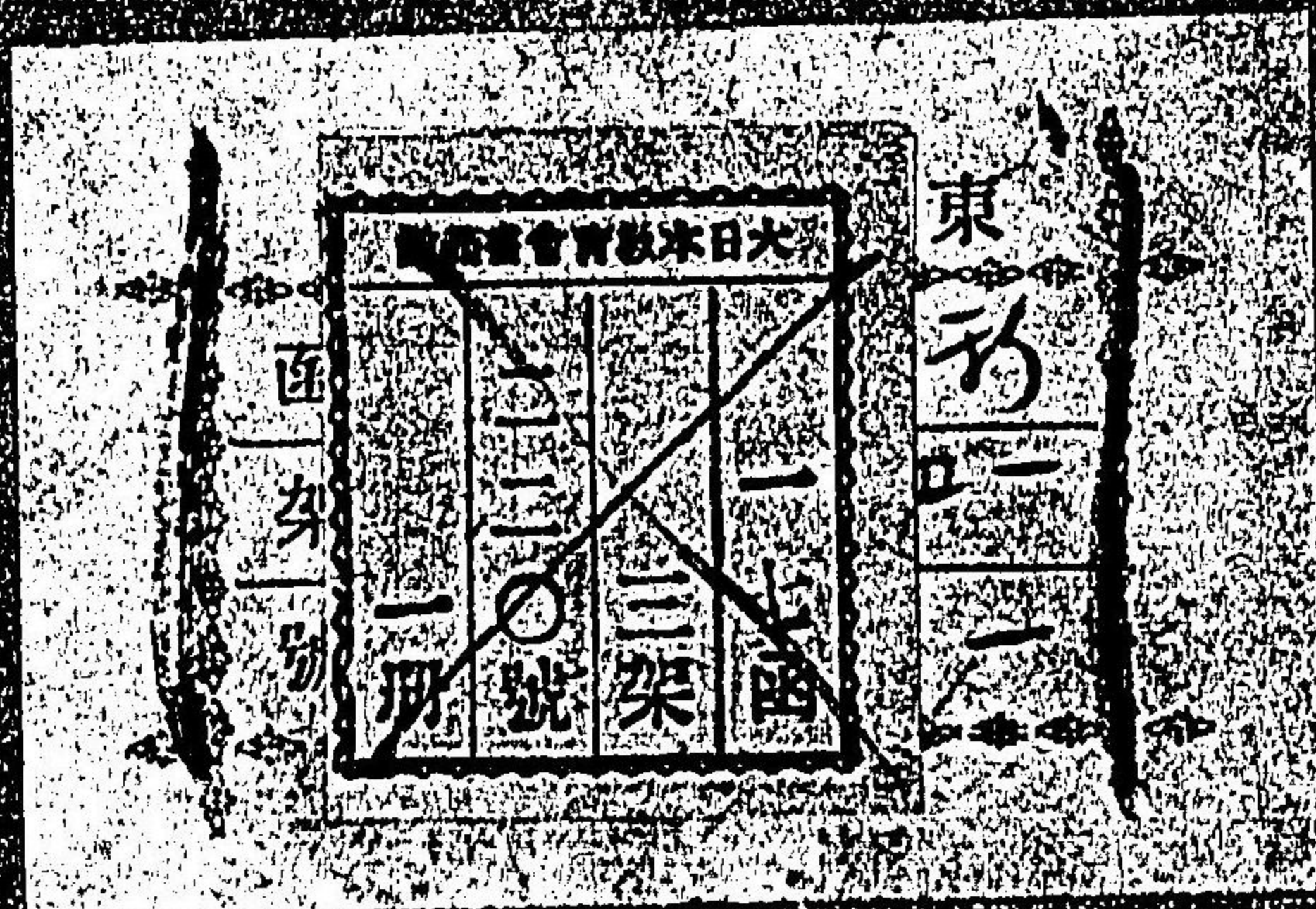


憲略說

特35

739



013946-000-0

特35-739

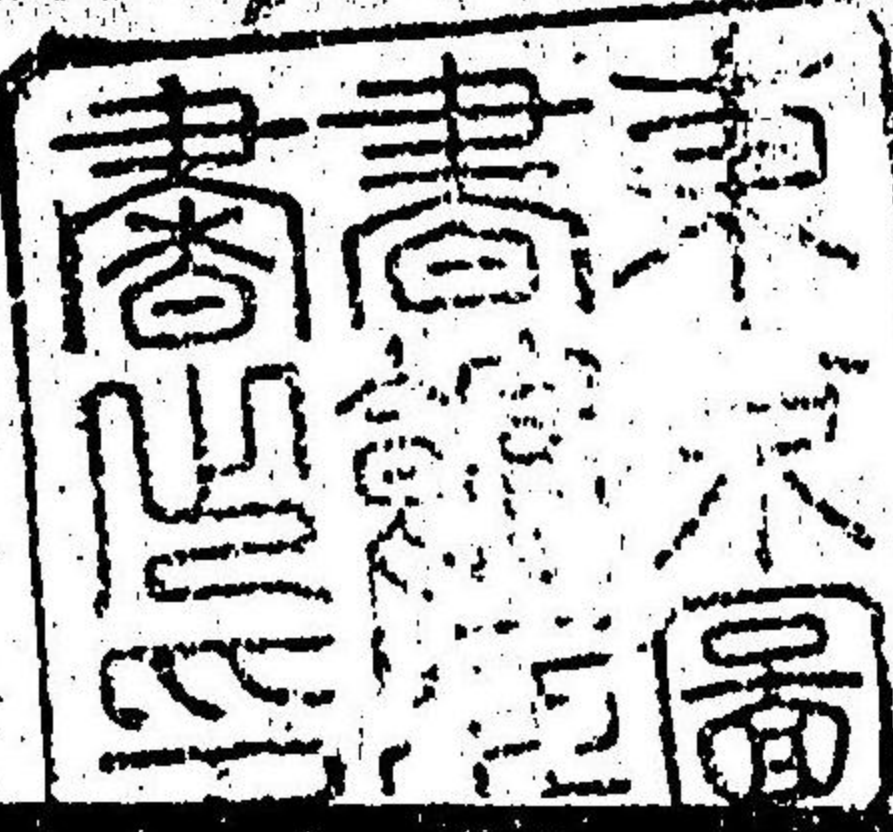
憲略說

大塚 嘉則/編

M12

ABB-0187





教憲略說序

神佛合併布教ノ時ハ神官僧侶三條教憲ヲ主張セシ
 ニ明治七年神佛分離各自布教ノトナリシ以來僧
 侶ハ多ク其宗祖ノ教ニ依リ三條教憲ヲ主張スル者
 少シ神道々々ト唱フル者モ今ハ分テ三トナリ一定
 ノ論ニ之レ無シ三條教憲モ當時盛ニ世ニ行ハレズ
 然ルニ敬神ハ皇國ノ神ヲ敬拜シ敢テ外國神ヲ拜
 スルトナク愛國トハ皇國ノ爲ニ忠誠ヲ盡シ敢テ
 外國ニ屈セザルトニテ天理ハ天神ノ大理人道ハ
 五倫ノ道ニテ君父ヲ以テ假ノ君父トシ真ノ君父ア

教憲略說序

ル等ノ邪説ニ非ズ 皇上ヲ奉戴トハ 皇國人ハ
天皇陛下ノ爲ニ忠ヲ盡シ敢テ外國ノ主ニ服從セザ
ルノ義此教憲ヲ守レバ 御國體萬古不易確然ト立
セラルノ義ニテ至大至重ノ義ナリ大塚老友爰ニ觀
ル在リテ此略説ヲ著ス其志感スベシ玉尾老友能ク
修理固成ノ演舌ヲ成得タリ感スベシ依テ一言ヲ記
シテ序トス

明治十二年八月 東京 權少講義關守貞選

教憲略説

權少講義大塚嘉則編輯

○夫レ教導ノ要タルヤ方今ニ在リテ新ラシキヲ知
ルヲ要ス其新ラシキヲ知ラント欲セバ古キヲ温ヌ
ルニ有リ先ヅ 皇國ニ於テ古ヘテ誓フレバ三種ノ
神寶ナリ其三種ノ神寶ニ繫ケテ熟知セシムレバ新
シキヲ知ルニ至ルベシ抑我日本ハ天之御中主神皇
産靈二柱神ヨリ人ノ生ル、時靈魂ヲ賦與セザルコ
ト無シ天神ノ詔リニテ伊邪那岐伊邪那美二柱神ニ
此漂ヘル國ヲ修理固成セヨト詔アリ二柱神奉シテ

是レヲ行ヒ八百萬神ヲ生給ヒ生終ニ天照大御神ヲ
生ミ給フ我邦ハ天照大御神生レ給フ國ニシテ即チ
日本ト云凡ソ日本ノ人ハ皆神代ノ時ニ在ス諸神ノ
神孫ニテ在レバ神ノ恩頼ヲ蒙ムラザル者バナシ然
レバ我が國ニ於テハ三種ノ神寶ヨリ尊重ナルハナ
シ即チ天照大御神御手自ラ皇孫瓊々杵尊へ賜フ處
ニシテ其神寶ノ一ハ玉ナリ玉ハ即チ多滿ナリ全德
有ルノ謂ナリ人ノ心魂ハ天之御中主神ノ賦與スル
處即チ人ノ仁德ナリコレハ各自ノ固有シテ在ル處
ノ道ナレバ其原由ヲ知ラズンバ有ルベカラズ蓋シ

人ノ性ヤ直シ其直キハ即チ神ノ賦與ナレハナリ是
故ニ人生ノ氣質ヲ視ルニ其赤子ノ無心ナルモ笑フ
容チアリ手ニ握ル形チアリ其笑フハ温潤ノ性ヨリ
發出ス手ニ握ルハ百事ノ業ヲ執ノ手始メナリ是レ
其以テスル所ヲ視ル所以ノ一ツナリ又父母ノ赤子
ヲ保ンズルハ天ノ運動スルガ如ク間斷ナキ恩愛ナ
リ其赤子ノ父母ヲ慕フモ朝夕止ム事ナシ是レ親子
ノ真心ナリ其真心ニテ親ヲ慕フ所以ハ天之御中主
ノ神ヨリ賦與スル道ニシテ孝道始テ斯ニ基ヒスル
ナリ其父母ノ愛情ヲ發スルヤ出レバ目送シ旋レバ

喜悅シ出ルニモ入ルニモ中心ヨリ發ス父母ノ慈愛
ハ斯ニ基スルナリ是レ所謂父子ノ親ナルモノ斯ニ
基スル處是ノ知慧ヲ真心ノ玉トス父慈ニシテ子孝
アル人物百行ノ本萬善ノ先キナルガ故内ニ父子ノ
親アリテ外ニ君臣ノ義ヲ生ズ君臣ノ義ハ下ノ文ニ
解スル如シ初父子ノ親ハ天理ニ出ヅ此愛情ヲ推弘
メテ邦國ニ用ル時ハ即チ愛國トナル譬ヘバ 皇國
中神道ト唱フル處ノ社中ハ一家ノ如ク左右ノ手ノ
如ク左ニ事アレバ左ニ於テ行ヒ右ニ事アレバ右ニ
於テ執行フテ身分相應ノ義務ヲ竭シ日本魂ヲ振ヒ

起スニ於テハ愛國ノ修業ハ十分出來ル譯ナレバ惟
今日言ト行ト一致スルニ在リ故ニ 皇國ノ人ハ苟
モ書ヲ讀メバ必シモ皇學ヲ以テ始トシ人倫ノ大道
ヲ主張シ學ベハ即チ是天之御中主神ヨリ全クシテ
賦與スル處ノ知徳ヲ全クシテ磨クヨリ急務ナルハ
無シ是レ乃チ敬ノ本源ナリ敬ノ基ヒハ各自吾ガ身
ヲ敬スルニ有リ身體ハ父母ニ受ケテ智徳ハ天之御
中主神ノ賦與シ給ヒテ天津神國津神水火神風神五
穀ノ神等ノ御恩ニテ生活シテ在ル身ナレバ敢テ敬
セザランヤ如此靈奇ノ身體ヲ自暴自棄セザルヲ以

テ萬物ノ長トナル所以ナレバ敬神ノ大意ハ吾が身
ヲ敬スルニ有リ自暴トハ自カラ善ヲ拒ンデ吾身ニ
固有ス善性ヲ害スルニ至ルヲ知ラザルヲ云フ自棄
トハ善事ヲ知ルト雖モ我身ハ下等ニシテ善ニ勸ム
ト能ハズトシテ自カラ善性ヲ棄ルナリ惜ムベキ事
ニ非ズヤ且ツ皇國ノ人ハ總テ神孫ナレバ日本魂
ヲ振起シテ惟一筋ニ真心ノ玉ニ瑕ノ付ザル様ニ致
スガ道ナリ貴賤貧富ニ拘ハラズ社中平生獨立ノ氣
カラ失ハズ結社致スハ禮ナリ故ニ能ク熟知シテ敬
神愛國ノ義ヲ行フニ於テハ他ニ求ムルヲ無シ國體

ハ即チ我身體ト心得今日ノ事業ニ體認セバ至ラザ
ル處ナシ故ニ今日ヨリ真心ノ玉ヲ新々ニシ勉勵盡
カシテ怠ルベカラズ

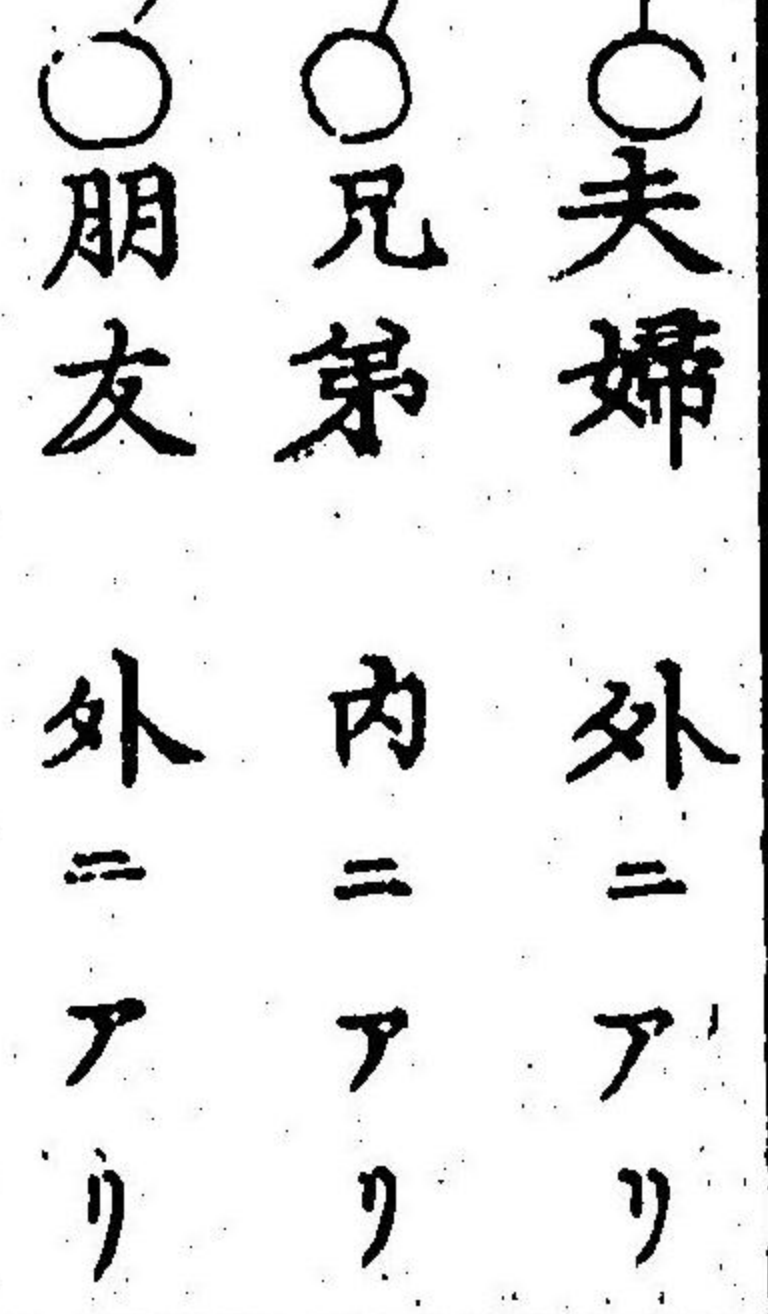
○凡天地ノ性人ヲ貴トス其人ノ道ハ五倫ヨリ大ナ
ルハナシ其原由ハ天理ヨリ生ズ故ニ前聖人モ天ニ
繼テ極ヲ立テ五倫ヲ基トス後聖人教ヲ立ルモ五倫
ヲ以テ教ヲ布ク是故ニ五倫ハ人道ノ大教ニシテ明
カニセズンバ有ベカラズ其道ハ君臣父子夫婦兄弟
朋友ノ五ツナリ是ヲ五倫トス倫トハ其筋合ノ同シ
キヲ云中庸曰率性之謂道ト謂ヘリ道ハ近キニ在リ

人ノ能ク知リ能ク行フノ義ナリ然レハ其卑近ナルヲ厭ヒ爲スニ足ラズトシテ反ツテ高遠行ヒ難キ事ヲ道トシテ異端邪説ヲ各人ノ意ニ任シ巧説シ千言萬語ヲ誦スト雖モ人倫ヲ離レテ人道ト謂フベケンヤ是故ニ人道ヲ明カニセズンバアルベカラズ依テ五倫ノ中三綱六紀アリ是道ヲ明倫鏡トシテ神寶ニ繫ケテ新タニスルハ道ヲ行フ人物トナルベシ依テ



△五倫

○明倫鏡



△君臣

○君義アリテ臣忠アリ以テ相遇フモノナリ 皇國ノ君臣ハ萬古不易ノ理君臣ノ分一定シテ不變ヲナレバ忠義ヲ盡スベシ

△父子

○父子ノ道ハ親ミ深キ理アリ其惡アリト雖モ諫言ヲ加ヘテ相離ル、一無キヲ要ス

△夫婦

○夫婦ノ道ハ外ヨリ相遇フ夫ハ義ニシテ

婦貞アルハ道ナリ婦不貞ナル時ハ去ルノ道アリ

△兄弟 ○兄弟ノ道本同根ヨリ生スレバ則兄友ニ

シテ弟恭シク相離レザル所以ノ道アリ

△朋友 ○朋友ノ道亦外ヨリ相遇フニ信ヲ以テ相

交ル信ナキ時ハ相離ル、モノナリ

右ノ五教ハ天理ヨリ生ス五ツノ内ニ三綱アリ三綱

ヨリ六紀ニ暨ヒ各相悖ラズ行ハル、ガ人道ノ尊キ

所以ナリ天ニ陰陽アリ人道ニ内外アル所以ナリ

○君臣 — 君ハ臣ノ綱ナリ 天

△三綱 ○父子 — 父ハ子ノ綱ナリ 地

○夫婦 — 夫ハ妻ノ綱ナリ 人

右三綱ハ天地人ニ配シテ教導ノ大本トスベシ

○師

○君臣ノ紀

○長

○諸父

○父子ノ紀

○兄弟

○諸舅

夫婦ノ紀
朋友

右圖ノ如ク配當シテ各自ノ心鏡ニ照準セバ少シク
補ヒアラシ故ニ各自ノ行狀ハ明倫鏡ニ由ラズンバ
明カナラズ明カナラザレバ善不善ノ分明了トナリ
難シ善ト不善トノ分ナクンハ亂スヨリ生ズルガ故
ナリ方今教化ヲ先トスルハ萬物ノ中ニ人ト生レテ
天之御中主神ノ賦與スル真心ヲ養フテ一生萬物ノ
長トナラシムル御主意ニテ有難キ譯ナレバ此御代
ニ生活シテ如此靈奇ノ賜ヲ受ケテ居ル身體ナレバ

其主宰スル真心ノ玉ヨリ重寶ナルハ莫シ是ノ玉ヲ
磨クハ明倫ニ如カズ是レ其由ル所ヲ觀ルニツナリ
又是ノ鏡ニ由ラザル時ハ真心ノ玉モ昏蔽ニ屬ス真
心昏蔽スレハ天津神國津神ノ御恩賴ニテ賦與スル
百骸ノ主ニテ大體ナル心魂モ小體ノ爲ニ役セラル
只役セラル而已ナラズ禍ヒヲ招クニ至ルサレバ一
日モ油斷ナク產業ノ暇日ニハ必ズ道ノ教ヲ聞キ古
今ノ證據アル言行ヲ聞テ躬ニ行フベシ古人モ今日
學バズシテ來日有ト謂フフ勿レ今年學バズシテ來
年有リト謂フフ勿レ日月逝ク歳我ト與ナラズト謂

ヘリ吾輩今日生活スルノ間ハ天津神國津神ヨリ賦
與セラル、真心ノ至ヲ日々練磨シ衣食住ノ三ツヨ
リ外ニ心ヲ用ルヲナシ天神地祇ノ御恩ニテ在ル身
體ニテ飽マテ食ヒ煖カニ衣テ天神ヲ參拜セズ其地
ノ氏神我家ノ先祖ヲ拜禮スル義ヲ知ラザレバ萬物
ノ靈長ト稱スル名義ニ恥ベキ甚ダシキ譯ナレバ今
日一善言一善行ニテモ履ミ行ヒ積テ大ヲナシ實學
ニ至ルヲ主張スベシ實學トハ今日ノ事業ニ於テ執
行ト事毎ニ習フベシ扱世間ノ習ヒハ一日ノ間ニ晴
雨有ルガ如シ幸福ノ時アリ病難ノ時モアリ人窮ス

レバ本ニ及ル人ノ病ヒ大患ナレバ百神ヲ祈ル又急
難アレバ必ズヤ父母ヲ思ヒ氏神ヲ祈ルハ本ニ歸向
スルナリ天下國家ノ爲ニ一命ヲ棄ルノ場ニ至リテ
蒼天ヲ仰ギテ號泣シテ天運ノ然ラシムルカト訴フ
ル氣アルハ是レ不知不識天之御中主神へ歸向スル
ニ至ル即チ天理ノ自然ナリ如此明カニ神理ニ通ス
ル證據アルガ故ニ天命ヲ恐ルベキ事ナリ天命ヲ恐
レザル人ハ深淵ニ臨ンテ恐レザルガ如シサレバ人
道ハ明倫ニ由レバ人ノ安宅ヲ得ル如ク安樂ナリ安
樂ノ根元ハ天之御中主ノ神ヨリ賦與スル處ノ赤子

ノ真心ナリ真心ヲ其儘ニ養フテ邪ニ入ラシメズン
ハ即チ是レ温潤ノ徳ヲ全ククルニ至ル温潤ヲ全ク
スレバ温良ノ徳ニ至ル温良恭儉ナドハ聖人ノ徳ヲ
形容シテ云フコトナリ是故ニ人道ハ他ニ求ムルコト
シ惟赤子ノ心ヲ吐キ露ハシテ足レリトス父母ノ教
ヲ待タズ生レ子ノ親ヲ慕フ心ノ在所ヲ求ル義ト定
ムベシ

○皇上奉戴ノ義ハ五倫中ノ君臣ノ義ヲ實ニ行フニ
アリ 皇上ハ即チ 天照大御神ト御同様開闢以來
皇統一系ニ在セラレバ 皇國ノ人民ハ一人モ洩

ナク 皇上ヲ奉戴スベシ即チ 皇上ノ慮慮ヲ察シ
奉リ遵ヒ守ルベキ事ナリ如此行ヒヲ立ントスルニ
ハ皇學ヲ主トスベシ萬卷ノ讀書有リト雖モ日本魂
ヲ熟知セズンバ譬ヘバ挑燈ニ蠟燭ヲ忘レタルガ如
シ益ナシ故ニ萬國普通ニ及ブ博學ト雖モ其根元ハ
現在ニアル處ノ皇學ニ在ベシ我カ日本魂ヲ主張シ
テ學ベバ其察所安ノ學術ニシテ活學ナリ是レヲ義
理ノ真心トスルナリ故ニ學ハ百聞一見ニ如スト謂
フハ是レナリ凡ソ慾心起レバ劍ヲ以テ物ヲ截斷ス
ル如ク慾心ヲ打消サバカラス就テハ義利ノ辨

ヲ明ニセザルベカラズ是故ニ日本人ハ日本魂ヲ振
起シテ皇學ヲ勉勵スベシ怠ルベカラズ我邦ハ神代
ノ儘ニテ絶へ給ハヌ神習ノアル日ノ本ナリ

教憲略説終

附録

修理固成演吉

上野

權少講義玉尾需著述

誰レノ家ニモ主人ナルモノアリテ其家ヲ總轄シテ
萬事其主人ノ指揮ヲ待テ其家ヲヨク修理固成スル
ナリ然ルニ他ヨリ俗ニ云居候イグナル食客來リテ其家
ニ滯留スル一世間ニマ、アル事ナリ其居候ニモ種
種アリ婦人ニシテ名ハ食客ナレバ其主人ノ寵ヲ恃
ミ本妻ヲシテ別居セシメ或ハ己レ其妻ニ代リ其妻
ヲ蔑如シ遂ニ其本妻ヲ放逐スルニ至ル又男ノ食客
モ元ヨリ其家ニ居ルベキ人ニ非ズシテ居候ノ身ト

シテ主人ノ妨害ヲナシ遂ニ其災ヲ醸出シ其家ヲ傾
 シトスルアリ左ナクトモ其食客ノ爲ニ其家ノ動搖
 ノ根元トナルアリ故ニ如此ノ機アラバ速ニ其根據
 ヲ除キ去ルベシカ、ル事家ニノミ有ニ非ズ人ノ心
 ニモ此ノ如ク主人食客ノ事アリ先ヅ夫々我が持前
 ノ業ニ従事勉勵シテ其心ヲ修理固成セントスルハ
 心ノ主人ナリ然ルニ其勉勵ニ倦ミテ惰リノ氣ヲ生
 ゼントシ又惡ヲ惡ト知ナガラ人ノ目ヲ忍テ其惡ヲ
 爲ントスルハ則チ心ノ居候ナリ其居候ナルモノ増
 長スルキハ其主人ヲ蔑視シ其主人ヲシテ身代限リ

トナサシメ其身ノ置處ナク容ル、處ナキニ至ルナ
 リサレバ其心ニ如此機アラントセバ速ニ根據ヲ探
 リ得テ斷然ト之ヲ除キ去リ而シテ後天ツ神ヨリ賜
 リタル心魂ヲ失ハズ日々ニ心魂ヲ練リ磨キテ主人
 ナル良心ヲヨク修理固成セシムベシ又如此ノ事人
 ノ心ニノミアルニ非ズ我皇國ノ上ニモ其事アル
 ナリ其主人ト申上ルバ恐レ多クモ天子様ハ則チ
 皇國ノ御主人ニ坐シテ實ニ天照大御神ノ御子孫
 ニ在シテ尊ムベク仰グベキノ御方様ナルハ人々
 ノ皆知ル處ナリ然ルニ皇國人ニシテ居候ニ均シ

キ外國人ヲ尊崇シ或ハ其教法ヲ信仰シ遂ニ忠孝倫
 理ヲ消滅シ至大至重ノ鴻恩ヲ忘却セントスルノ類
 是レ本末輕重ヲ轉倒錯亂シテ實ニ皇國ノ大罪
 人ナリ故ニ我修成派管長新田殿ハ夙ニ其機ヲ洞察
 シテ古今未曾有ノ卓見ヲ以テ古事記ノ書ヨリ修理
 固成ノ四字ヲ見出シ給ヒテ當派ノ一大眼目トナシ
 テ派内社中ニ揭示セラレタリ故ニ派内社中ニ於テ
 モ修理固成ノ尊キ所以ヲ知り此教法ニ從事スルヲ
 得ルハ實ニ幸甚ト謂ベシ庶幾ハ我派内社中ノ諸君
 子天壤ト共ニ此ノ教法ヲ維持シ無窮ニ修理固成ス

ルヲ要ス我修成派ヲ修理固成セント欲スルハ先
 ツ教導職タル者常ニ其教法ニ從事シ上ハ朝廷ヲ
 尊崇シ下ハ派内社中各自其分ヲ守リヨク親睦シテ
 協力同心シ我教法ヲ維持シ日ニ増シ月ニ盛ニシテ
 遂ニ海外ニ波及スルニ至ラシムルヲ要スベシ然ト
 雖モ目今外國ノ教日ニ月ニ蔓延シ愚夫愚婦ヲシテ
 己レガ域ニ誘導セントスルノ時ナリ故ニ我管長新
 田殿ハ曩ニ其機ヲ洞察セラレ之レヲ防禦セントシ
 テ御維新以來晝夜寢食ヲ安シ給ハズ三過其門而不
 入ノ思ヒヲナシ給フノ御赤心今ニ至テ遂ニ貫徹シ

テ明治九年十月廿三日神道修成派別派御許可天下
一般へ御布達世人ノ知ル處ナリ然レバ當派内ニア
ル教導職世話掛ハ申ニ及バズ當派ニ入社シタル人
民必ズ右管長新田殿ノ御志ヲ受繼ギ神明ニ誓テ日
本魂ヲ振起シ其人ノ賢愚ニ隨ヒ當派教法ヲ擴充シ
實際上ニテ當派ノ當派タル修理固成ヲ切磋シテ盛
大ノ域ニ至ラシメズンバアルベカラズ就テハ當派
修理固成ノ説ヲ愚意ヲ以テ考フルニ上中下ト云文
字アリ此上中下ヲ倒ニ反セバ又上中下ナリ此レ則
上ノ氣下へ融通シ下ノ氣上へ達スルノ意ナリ又中

ノ一字ハ所謂無過不及曰中不偏曰中ノ意ニシテ中
ハ素ヨリ真中ニ直立シテ文字ノ姿口ニツアリテ直
ノ棒アリ此ノ口ハ上へモ下へモ同ジ口ヲキ、不偏
タメ直ノ棒ヲ以テ之ヲ正スナリサレハ上ハ則チ
天皇下ハ則士民中ハ百官有司ナリ又當派ニテ云ハ
上ハ管長新田殿ナリ下ハ各自社中ナリ中ハ教導職
世話掛等ナリ然レバ管長新田殿上ニアリテ千辛萬
苦アラセラル、凡中ニ居ル教導職不中ナレバ上意
下ニ通セズ下情上ニ達セズ如何ナル良法アリトモ
徒事トナリ遂ニハ上下隔絶シテ所謂易經ノ天地否

ノ如クナラントス依テ中ニ居ル教導職世話掛等専
ラ注意シテ布教ニ從事シ上下ノ氣相通ジテ地天泰
ノ如クナラシメ陽ノ氣上リ陰ノ氣下リ相融通シテ
隔絶ナキヲ要スベシ是レ當派ヲ修理固成スルノ法
ナリ我修成派ニテ重ク用ル處ノ八字中光華明彩ハ
豈ニ惟我皇國ノミナランヤ海外萬國ヘモ我教法
ノ光華ヲ及ス様盡力有ベキナリ

明治十二年八月二十日御届

定價金錢

編輯人

權少講義大塚嘉則

阿波國美馬郡舞中島村七番地

出版人

山田龜一郎

東京駒込西片町三番地寄留

